

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	大阪市高速電気軌道株式会社
---------	---------------

整備方針	
全期間	<ul style="list-style-type: none"> ・全線全駅にホームドアを整備 ・ホームと車両の間の段差・隙間の縮小 ・エレベーター、エスカレーターを整備によるバリアフリー経路複線化のさらなる推進 ・音案内やサービス情報表示器による誘導案内設備の充実 ・低床車両の導入推進によるホームと車両の段差解消
2021～2025年度	<ul style="list-style-type: none"> ・48駅98番線にホームドアを整備することで全線全駅にホームドア整備完了 ・ホームと車両の間の段差・隙間の縮小 ・エレベーター（6駅6基）の整備によるバリアフリー経路複線化のさらなる推進 ・音案内（6駅）やサービス情報表示器（83駅）による誘導案内設備の充実
2026～2035年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームと車両の間の段差・隙間の縮小 ・エレベーター（20駅33基）、エスカレーター（15駅20基）の整備によるバリアフリー経路複線化のさらなる推進 ・音案内（112駅）による誘導案内設備の充実 ・低床車両の導入（御堂筋線18編成）によるホームと車両の段差解消

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	※ 1	0
年間徴収額 (百万円)	4,470		1,284	0
料金徴収 対象駅	全133駅			
備考	(注)設定額は税込額 ※ 1 通勤定期券 大人への設定料金 1か月380円 3か月1,080円 (1,090円) 6か月 2,050円 (2,060円) ※ 2 上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券、1日乗車券からの徴収額を含む。 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途周知する。			

年間徴収額	5,754	百万円
徴収期間	13	年間 (2023.4.～2036.3) ※2036年度以降の継続について検討予定
総徴収額	74,802	百万円
総整備費	145,384	百万円
	(2021～2025年度の計画：39,295百万円 2026～2035年度の計画：106,089百万円) ※2036年度以降の継続について検討予定	

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（付帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	48 駅	98 番線	20,068 百万円
エレベーター	6 駅	6 基	2,230 百万円
段差隙間縮小に資する設備	37 駅	76 番線	2,777 百万円
その他	各 駅		535 百万円
備考	その他の内訳：音案内（6駅）・サービス情報表示器（83駅）		
(2) 更新費（付帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	5 駅	10 番線	177 百万円
エレベーター	各 駅	61 基	2,408 百万円
エスカレーター	各 駅	31 基	1,155 百万円
その他	各 駅		3,417 百万円
備考	その他の内訳：旅客案内表示器・案内設備		
② 車両更新			
路線名	整備数		整備費
	－ 編成	－ 両	－ 百万円
ホームドア整備等 との一体性について	－		
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費（付帯費用含む）			6,130 百万円
収受システム改修費			79 百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			319 百万円
備考	その他の内訳：駅務機器改修費・駅頭表示改修費		

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	39,295 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		98	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	－	駅
	二経路以上確保駅	5	駅

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2036.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	20 駅 33 基	15,000 百万円
エスカレーター	15 駅 20 基	6,300 百万円
段差隙間縮小に資する設備	11 駅 22 番線	900 百万円
その他	112 駅	1,000 百万円
備考	その他：音案内設備（ホーム階段部、改札口）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	47 駅 95 番線	3,117 百万円
エレベーター	各 駅 132 基	5,899 百万円
エスカレーター	各 駅 131 基	10,639 百万円
バリアフリートイレ	23 駅 46 ヶ所	230 百万円
その他	各 駅	6,777 百万円
備考	その他：旅客案内表示器・サービス情報表示器・幅広改札機、音案内・案内設備（サイン）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
御堂筋線	18 編成 180 両	36,000 百万円
ホームドア整備等との一体性について	ホームと車両の段差解消のため、車両の低床化を目的として車両更新を行う。	
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（付帯費用含む）	20,227	百万円
収受システム改修費	—	百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	—	百万円
備考	※2036年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他費用について、本様式には計上していない。	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	106,089 百万円
-----------------------	-------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数	—	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	—	駅
	二経路以上確保駅	20	駅